

規制改革会議
雇用WG
2013年11月5日
佐々木かをり

労働時間規制改革についての考え方

◆はじめに：

労働時間規制改革について考えることが、今の日本において重要であることは、言うまでもない。これは単に、長時間労働をなくして労働者の健康を守ることにとどまらず、長時間労働によって多様な学習・体験機会を失って競争力をもたなくなる労働者をなくし、健康・健全な労働者を増加させることこそが、生活品質の向上、そして日本の経済成長に直結するからである。健康・健全な労働者は、多様な生活体験を通して、学び、出会い、考え、豊かな創造力等を身につけて企業・組織に貢献することができる。長時間労働をなくすことは、企業にとって労働力の損失ではなく、生産性の高い人材を確保することになる。ワークライフバランスとは、労働時間の短縮ではなく、何をしていても最高の成果を出せる状態であること。長時間労働をなくすことが、生産性・創造力の高い貢献する人材を増やす。

また同時に、提供する成果が労働時間数だけで測られるという考え方から脱却する必要がある/希望する労働者が急増しているという点でも、労働時間規制改革が必要である。労働時間数・時間帯にかかわらず貢献したいという多様な労働者が活躍するために、どのように柔軟な労働環境を提供できるかが、日本の競争力に大きく影響すると考える。

◆目的：

労働時間規制改革の目的は、健康・健全な労働によって組織に貢献する多様な労働者を増やすことであり、そのような労働者の貢献によって、組織の創造性、生産性が高められ、長期的かつ多様なプラスの成果をつくる企業を増やすことである。

◆現状と近未来：

現在の労働基準法が誕生したころの労働環境と今は大きく変化した。会社に出勤し、そこで一定の指示にしたがって仲間と仕事をするという形から、時差のある海外と仕事することも、また、ITを活用して違う場所にいる人と仕事することも、母乳をあげながら仕事を続けることも可能となった。命令や指導を受けながら業務にかかわる立場の労働者にも、自主的、能動的な提案や裁量が与えられる職場が増えてきた。1日の労働時間を短くしたい人もいれば、毎日を長めに働いて週休3日を希望する人もいるだろう。育児や介護の理由から、1日の働く時間を連続でなく分散させたい人、在宅での仕事を長くしたい人、早朝に家で少し仕事をしたい人、様々な宗教の規律を守り働く人、多国籍のチームで働く人等。今後も速いスピードで変化する企業・社会・生活に対応できる健全かつ柔軟な労働法に改革する必要がある。

◆改革によって守るもの：

労働者の肉体、精神、思考の健康・健全。

◆改革によって提供されるもの：

健康・健全な労働者による積極的な貢献。

◆労働時間規制改革のポイント：

1：労働時間の絶対上限を決める

- 労使協定でも超過できない絶対上限を決め、働く人全員の健康を守る。
健康を守ることが、労働者の多様性を高め、より貢献度の高い人材を増やす。
- 賃金や評価と関係なく、健康管理のための労働時間の管理等は組織に義務付ける

2：連続休暇の義務化

- 土日祝日を含め、年に1回は連続10日間以上の休暇をとることを義務付ける等。
- 労働者の健康確保・多様性向上とともに、組織のコンプライアンス管理にも役立つ。
- 別途、有給休暇の100%取得のための仕組みの必要性。

3：裁量制をシンプルにする

- 労働時間数以外の評価方法・貢献方法を求める労働者と、上記2点を守ったうえで合意すれば、対象労働者の範囲、業務内容にかかわらず、労使が自由な裁量で労働契約を決定できるようにする。
- その際、労働者が希望する健全な労働時間数であれば、深夜時間（22：00－5：00）や休日の労働が一部含まれても割増賃金の対象とならないことを考える。
- 契約内容や労働環境の健全性及び労働者の貢献度を評価するために、裁量制の労働契約の内容については毎年見直されるなどと期限を決める等の必要性。
- さまざまな企業の人事部が複雑な裁量制に臆病になり控え目に活用することになっている実態もある。誰にもわかりやすいルールにしたい。

◆最後に

組織はチームであり、労働は貢献である。雇用者は労働者が創造性を持って最大限に貢献できる労働環境を提供する必要がある、労働者は自分の力を日々高めて組織に積極的に貢献する必要がある。長時間労働が認められる法的な仕組みが変わることで、人々の生活や価値観にも変化が起き、多様な人材が活躍できる労働環境がつけられると考える。グローバル社会、多様な価値観、そしてIT社会の今、企業規模や業界、官民にかかわらず、多様な労働者がのびのびと貢献できるよう、絶対環境を明確にした上で労働者や企業を信頼して裁量を与え、柔軟性あるシンプルで健全なルールに迅速に改革することが必要である。

以上。